■原善三郎　　実業家。横浜開港直後に進出，最大級の生糸商となり，横浜政財界を主導した。三渓の養祖父。
はらぜんざぶろう
日本外史・・1827＝　　秩父絹を江戸の呉服屋に送る中継点だった武蔵国児玉郡渡瀬村(埼玉県神川町)で，旧家の豪農で蚕糸仲買をはじめ醸造・質屋・製材・製糸など手広く経営していた原太兵衛の長男に生まれた。
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝ 1歳：

近くの山寺の寺子屋に通って勉学。

・・・・・・1836＝ 9歳：
大塩平八郎乱1837＝10歳：

勧進帳初演・1840＝13歳：寺子屋をやめ，家事手伝いすなわち商売見習いを始める。

糸質を見分けるのに非凡さを発揮するとともに，客に対しても毅然と振舞うところを見せ，江戸の呉服商にまで名が知られるようになる。
阿部正弘首座1845＝18歳：

・・・・・・1847＝20歳：父母に勧められ，隣町の娘もんを娶る。

尊徳報徳論・1851＝24歳：長女八重誕生。

ペリー来航・1853＝26歳：
開国開港・・1854＝27歳：

安政の大獄・1859＝32歳：_横浜が開港されてまもなく中居屋十兵衛の荷主として横浜を訪れ，
桜田門外変・1860＝33歳：_輸出生糸の荷主となって，以後活躍。
遣欧使節・・1861＝34歳：秘書的人材を求めていたところ，同郷の知人の娘幸子が現れ，その才にも惚れ込んで同居するに至る。
生麦事件・・1862＝35歳：郷里で妻もんが死去。弁天通三丁目(横浜市中区)で生糸売込問屋亀屋を開業，資本二千両と言われる。
8月18日政変 1863＝36歳：
あの手この手で父母を説得し，幸子が正式の妻となり，
薩摩藩士密航1865＝38歳：*横浜に正式の店を開き，水戸浪士が跋扈して貿易が沈滞するなか，危険を冒して敢行し財を築くが，同業者を敵に回し，奉行所へ訴えられそうになる。

明治維新・・1868＝41歳：*早くも茂木惣兵衛と並ぶ最大級の問屋となる一方，横浜商人会所を設け，
戊辰戦争終・1869＝42歳：_横浜為替会社の役員にあげられ，貿易会社頭取となるなど，公私多忙を極める。
初の日刊新聞1870＝43歳：横浜への船が沈没して義弟一家を失い，ショックでしばらく閉じこもる。
この頃，八重に婿元三郎を迎え養子とする。
学問のすすめ1872＝45歳：
明治6年政変 1873＝46歳：_横浜為替会社が第二国立銀行となると初代頭取となり，政府指導による横浜生糸改会社の社長にも就任。

欧米からの圧力で横浜生糸改会社の経営は暗澹たるものとなり，

西南戦争・・1877＝50歳：生糸製造取締規則の廃止とともに消滅，代わって生糸商人申合規則が制定される。

・・・・・・1880＝53歳：*福沢諭吉に相談して，横浜商法会議所を設立し，初代会頭に就任。
明治14年政変1881＝54歳：

秩父事件・・1884＝57歳：皇居造営に千円を献上し銀杯を下賜される。
内閣発足・・1885＝58歳：郷里の渡瀬尋常小学校校舎新築にも五百円寄付。
帝国大学始・1886＝59歳：_横浜蚕糸売込業組合を設立して初代頭取となり，名実ともに横浜貿易の指導者となった。
この前後，_現在の三渓園の地に山荘を開き，陸奥宗光とともに訪れた伊藤博文が松風閣と命名。
初の対等条約1888＝61歳：_郷里の渡瀬に製糸工場を建設，この前後，戦艦国防費二万円を献上し，黄綬褒章・正六位。
帝国憲法発布1889＝62歳：_横浜に市制が敷かれ，市議会の初代議長，
帝国議会始・1890＝63歳：養子元三郎が死去。
足尾鉱毒始・1891＝64歳：_横浜生糸取引所が設置されて理事長となり，群馬県吉崎に大製糸工場を設け，所得が古河・安田に匹敵。
大本教・・・1892＝65歳：八重と元三郎の間の一人娘に青木富太郎を迎え養子とする。_埼玉県五区から立候補して衆議院議員に当選，以後3期連続当選し，輸出税全廃運動に取組むも難航，
郡司千島探検1893＝66歳：_渡瀬の製糸工場が全焼するも，直ぐに新築してイタリアの機械でさらに生産向上。
日清戦争始・1894＝67歳：_横浜蚕糸外四品取引所が設立され初代理事長。
日清戦争終・1895＝68歳：妻幸子と娘八重を相次ぎ失う。_横浜商業会議所の会頭にそれぞれ選出される。
八幡製鉄始・1897＝70歳：_多額納税によって貴族院議員となり，勲四等瑞宝章。
子規句歌革新1898＝71歳：「生糸貿易論」を著すか？
Bushidou・・1899＝72歳：_病没した。

勝浦吉雄「(生糸商)原善三郎と富太郎(三渓)・その生涯と事績」，